

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を生かし、毎月の会議や日常の申し送りの際も理念を共に確認出来るよう努めています。	理念を台所に掲示するなど支援実践の場に掲示して徹底を図っている姿勢が理解出来ます。毎月の会議で、理念を実現するための支援について話し合い、共有認識を確認し合うための仕組みが出来ています	利用者の様子は業務日誌にも記載し申し送りしているが、業務日誌には回覧印を押すなど徹底されていることを確認出来る仕組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域でのお祭り行事や地元の保育園、幼稚園、中学生、ボランティアの方々の訪問が多くあり、一緒に楽しまれている。	地域のお祭りを楽しんでいる写真、園児や中学生から利用者への思いやりのある手紙、多くのボランティアの訪問記録で地域とのつながりが深まっている様子が読み取れます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を開催したり、小・中学校の職場体験学習や高校生のボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は運営推進会議や家族へも報告し、毎月の会議の際も話し合い、意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には市の高齢者福祉課、地域包括、区長、民生員、家族、職員等の参加で実施されている。その意見や要望は議事録として記録され事業運営の透明性やサービス向上への姿勢が確認できます。	運営推進会議は年6回開催するように事業計画に位置付け、利用者のQOLの向上と更なるサービスの質の向上に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会や研修にも積極的に出席している。 市の福祉課とは運営推進会議の出席を含め、良い関係作りを努めている。	事業所の研修報告書の提出及び施設での取り組みを市長村担当者に報告し連絡を密にとっています。市の主催する研修に出席し、又市職員の研修の場として事業所を提供するなど市と職員の関係を深めています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止についての勉強会や研修にて理解をしている。日中は玄関やテラスには施錠せず、身体拘束はしていない。	職員研修を2カ月に1回実施しています。玄関には施錠せず、個々の外出の傾向を把握し職員が声を掛け合って対応しています。また、利用者が玄関に行く様子を職員が気付くように見通しのよい設計になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、勉強会にて学んでいる。 入居者の心身の状態は充分注意を払い、申し送りにより把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症の研修会等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。成年後見制度を利用されていた入居者もいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者や家族にも施設内を見学していただき、話し合いの場を設け、不安や疑問に対して十分な説明を行い、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族とは意見、要望が表わせる関係作りに努めている。 それらの意見は会議にて検討し改善に努めている。	家族が月に1回支払いもかねて来所された時、健康面や日常の様子を伝え、コミュニケーションを取り、要望や意見を言いやすい関係を作り、出された意見は記録して、会議で話し合い改善につとめています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案ができる機会を設けている。会議には代表者、管理者も出席しており、十分な話し合いを行っている。	職員⇒管理者⇒施設長という意見伝達の流れが来ています。それを全体会議で検討し、実現しています。例えば行事や業務の見直し、勤務時間の変更等職員のアイデアで実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議にて話し合いがもたれ、改善点があればその都度検討をしている。介護職員処遇改善交付金も最初から申請し、支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等へも積極的に参加し、会議にて内容の共有にも努めている。レベルアップの為、国家試験も奨励している。内外の研修には研修費が支給されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させるべく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加しており定期的に同業者との勉強会等にも参加している。互いに情報交換し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも本人や家族が見学されており不安や要望にも十分配慮をしている。お互いに話し合いをし、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安、要望等はお互いの話し合いのなか伺っており、信頼関係に努めている。入居者の多くは併設のデイサービスからの入所が多く不安感が少ない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を伺い、職員間で十分検討した後、選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人権を尊重しながら支援し、生活のなかで共同作業を通して信頼関係を築いている。職員の学びにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年家族会を兼ねた遠足会等を企画し多数のご家族様が参加されている。入居者、ご家族、職員三者の関係作りに努め、質の良い支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にされていた知人も気軽に来所されている。併設のデイサービスにも知人がおり、お互いに交流が持たれている。	利用者の個人記録で知人や馴染みの場所を把握し、併設しているデイサービスに知人が来られた時など、自由に交流できるようにしています。実践の様子は訪問記録や来訪者からの礼状でも読み取れます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がより良い関係作りができるよう席の配置に考慮している。お互いの立場を尊重し、職員が間に入り、さりげなく援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係を断ち切らない付き合いができるように、入院、退院後もお見舞いや訪問をしている。家族の相談にも十分に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活に合った暮らし方ができるように配慮している。本人の希望や意向は話し合いのなかに把握し、毎日の申し送りや会議にて検討し、生活に生かしている。	日々の関りの中で十分な会話をを行い、表情などからも把握に努め申し送りノートに記入し、検討して、日々の支援に生かしています。例えば農家の方で畑に出たい利用者には草抜き等を手伝ってもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境にも配慮している。昔からの趣味である編み物や園芸等にも取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考えながら日常生活に努めている。生活変化にも総合的に把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や連絡の際に本人の状況報告と共に、本人の希望や意向を伺っている。介護計画は十分に反映している。	利用者、家族からの要望を反映させるように、利用者の視点に立って、援助方針を決め、目標を定めて、実践し、総合評価を行い、個々の変化に対応した計画の見直しを、臨機応変に行っていることがモニタリング記録等から分かります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況変化や気づき等がみられた際は、ケース記録や業務日誌へ記入し、日々の申し送り時にも報告し、情報を共有している。又、会議にて検討し、介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて受診先も決めている。又、併設のデイサービスとの交流も図っている。家族旅行、結婚式等にも自由に外出され対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの受け入れや近隣の保育園児との交流の中で楽しまれている。又、消防士立会いによる避難訓練を実際に経験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を利用されており、本人及び家族と相談しながら健康維持に努めている。重度化した場合に往診もしてもらっている。	市内十数か所の個々のかかりつけ医を把握し、遠くても家族と一緒に受診しています。24時間対応の協力病院の医師が週1度往診に来てくれる等、継続した医療が出来る協力関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院での経過状況について説明を受けており、入院中はお見舞いやその後の状態把握に努めている。又、退院に向けてのカンファレンスには施設長と管理者が出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した際は、家族やかかりつけ医、施設の看護師及び介護職員が連携して、今後に向けての支援に取り組んでいる。本人の人権を尊重しながら終末期ケアに努めている。	本人や家族と早い段階で話し合いを持ち、状況の変化に応じた対応に合意を得ている。看護師の24時間体制の仕組みや医師による職員研修を行い不安の解消をなくす仕組みが取れて、医療連携体制が整っています。	家族と十分話し合い医療との連携体制をとっていることは業務日誌で確認出来ますが、家族からも説明記録へのサインや同意書をもらう等、リスク管理に対する対策もとられるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変時に備えての勉強会や研修にも参加している。又、会議においても共有し実践力に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防士立会いでの避難訓練を実施している。又、夜間想定や地震発生時の訓練にも取り組んでいる。又、市役所での緊急時の避難についての説明会にも積極的に参加している。	地震を想定、夜間想定、火災想定、年6回利用者と職員で実践的な訓練を行い、消防署の立会での訓練も行っている様子が写真で確認できます。	職員だけの誘導の困難を確認し、消防署の協力を得て地域の方や他の事業所の協力が得られるように、日頃から話し合いや一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや人権を尊重した言葉使いや対応には充分注意している。	職員は利用者を家族のように、親しみある接し方をしています。利用者を尊敬し、敬っている事が分る支援を声掛けや態度で実践しています。プライバシー保護の研修を行い事業所全体で取り組んでいる様子が見えます	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買い物にも本人の希望を伺い対応している。 本人の意見が表現できるように穏やかな姿勢で接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合った暮らし方を把握し、本人の希望に配慮しながら満足感が得られるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や年間行事の際は、本人の希望を取り入れその人らしいおしゃれができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自が自分で出来るお手伝いをさせていただけるように配慮している。入居者の好みの食事やおやつを手作りし、食事が楽しみなものになるよう工夫している。又、外食の機会も設けている。	日常的な会話で好みを把握して、3食の食事、おやつ、誕生ケーキを全て手作りでいい利用者さんが楽しんで食事している様子が写真や実際の食事風景から分かります。利用者、家族と職員と一緒に外食したり、家族が施設の食事を一緒に取る事も出来ます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を考慮しながら、かかりつけ医の指示に応じた栄養摂取や水分量、習慣に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶にいよるうがいや義歯を洗浄している。 又、入居者自身で歯磨きをしていただき、磨き残した際はさりげなく介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレへの誘導をしている。 本人の状態に応じて、オムツの使い分けや尿器の使用等、自立に向け配慮している。	排泄チェック表を活用し時間を見計らって排泄パターンに応じてトイレ誘導し、自立支援を行っている。排泄チェック表を個人ケースに記録し、総合的に利用者の健康管理に活用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材の利用、水分補給を心がけている。主治医とも相談しながら対応している。毎日、リハビリ体操を実施し、散歩も取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴ができるよう一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。 入浴拒否があった際には、時間やタイミングを工夫している。	本人の生活習慣や希望に合わせた入浴が出来る様に職員ローテーションを工夫し個々に合わせた入浴支援をしています。くつろいだ気分で入浴出来るように、個浴対応にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調により休息している。又、夜間に良眠できるよう温度や湿度の調整を行い、日中の活動にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医を受診する際、説明を受け状態を報告している。看護師より薬の目的や副作用について再確認を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に沿った支援に努めると共に、入居者の楽しみや気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との食事や外出等、普段から自由に外出できるよう支援している。 又、ご本人の希望に沿った食事、買い物、墓参り等、外出ができるよう工夫している。	一人一人の習慣や楽しみや移動能力に合わせてお花見等普段いけない所にも行く外出支援を行っています。全ての利用者が外出を楽しめるようコンビニでカートを押してもらう等支援を日常的に行い、その時の写真を見て再度楽しめるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額の所持金を持っている方もいる。外出の際の買い物はできるだけ本人に財布を渡して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが自由にできるように支援している。誕生日や敬老の日には、家族からのプレゼントも多く届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、天井も高い為、開放的であり、リビングの明るさも蛍光灯の明るさも調節ができる。又、季節を感じられる飾りつけを入居者と職員が一緒に行っている。	五感刺激を意識して、運動会などイベントの写真、利用者の日々の様子が分るスナップ写真を載せた「すこやか通信」をホールに貼り、利用者と一緒に作ったクリスマスを飾り付け、折り紙、習字、花等を飾り心地良い共用スペースを来訪者も感じてもらえる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファーや長椅子、マッサージチェアが置かれており、気の合う入居者同士で過ごせるくつろぎの場となっている。天気の良い日には、デッキでくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた物品が置かれて、居心地よく馴染みの生活が継続できるよう工夫している。入居者様の中には、自宅でお守りされていた仏壇が置かれている方もいる。	個室には名札と写真を掲示し、そこが自宅の居室と位置付け、職員一同が利用者の声を見逃さず、馴染みの筆筒、仏壇、大好きな芸能人のポスターを貼って、自宅と環境のギャップを感じさせない工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には目印となる名前や好みの写真を貼り、できるだけ混乱を防ぐ工夫をしている。 各室の洗面台は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。		